

仙台陣屋 かわら版

第 93 号

(平成 24 年 11 月号)

発行: 仙台藩白老元陣屋資料館

〒059-0912 白老町陣屋町 681-4

TEL&FAX 0144-85-2666

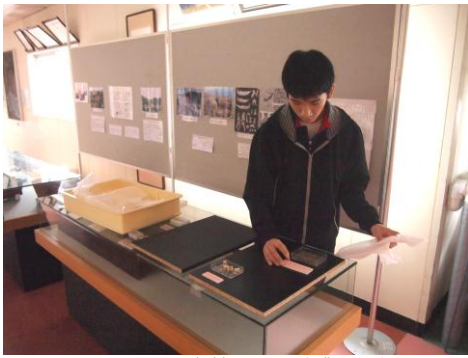
未来の学芸員あらわる?!

10月16日(火)から18日(木)の3日間、竹浦中学校2年生の藤島秀君が職業体験学習で、学芸員の仕事を体験しました。

今回僕が体験したのは受付や展示物の設置です。受付で話す楽しさ、展示物設置の難しさや厳しさを知りました。職業体験の初日は緊張していて、何をしたらいいのか解らなかつたけど、職場の皆さんが優しく教えてくれたので、緊張しながらも真剣に仕事をするこ

とができます。昔の物に触れて仕事をするのは、壊してしまつたらどうしようという気持ちが出てくるので、動きが鈍くなります。でも実際に触れられたことは良い経験になりました。もう一度、白老元陣屋資料館で職場体験をやってみたくなりました。

展示物のレイアウトなど、初めての作業で戸惑ったこともあったと思いますが、3日間、本当にお疲れ様でした。今回の体験が、今後、いろいろな場面で役立つことを期待しています。またいつでも遊びに来てください。



<緑丘小学校で展示作業!!>

戦後における甲斐の歴史

白老歴史講座を10月から再開しています。講師は前半から引き続き、中村齋氏にお願ひしています。第5講では「国策が個人の意思を奪う」と題し、日清戦争から敗戦までの歴史について、戦時体制が白老にどのような影響を与えたか、年表を辿りながら説明されました。

続く第6講の「和牛と大昭和」では、新憲法の登場や特需がもたらした経済発展と環境問題など、この時代の社会的情勢の特徴が講義の中心となりました。

また昭和30年代から着手されたポロト観光開発事業や、白老観光株式会社設立に触れ、アイヌ文化の発信を含めた観光の取り組みが進められた時期であることを指摘されました。



気合一閃！ 光る白刃

きあいっせん ひかるはくじん

9月から行なっていた陣屋刀剣展。現代に活躍する刀匠の作品を一目見ようと、遠くは岩見沢など町内外から、千人を超える来場者がありました。10月13日(土)は、出展者の一人でもある瑞泉鍛刀所の堀井胤匠刀匠が、展示品や各刀匠の紹介も行ないました。

その後は資料館の前庭に会場を移動し、帯刀した刀匠が古式に則った演武をおよそ30分にわたって披露しました。やや曇り気味だった秋空の下で、いろいろな状況に応じた居合いの太刀が閃きました。居合いによって断ち切られたへらづとくには、子ども達も興味津々の様子。きつと一生忘れられない思い出になったことでしょう。



あしあと 仙台藩士の足跡をさがして

秋の気配が漂いはじめた10月5日(木)、仙台陣屋の友の会で研修会を行ないました。目的地の小樽市は古くからの港町で、また仙台藩士たちが無念の内に北海道から脱出した地でもあります。

小樽市では歴史的建造物が数多く保存されており、外装ばかりではなく内装もしっかりと整備・復元されています。たとえば旧日本銀行(株)小樽支店では、各机の上に備えつけられていた電灯も当時と同じように再現されていました。

このほかにも小樽市総合博物館(鉄道記念館)や運河館などをめぐり歴史への知識を深め、郷土史に関する解説の楽しさと大切さを再確認して帰路につきました。今回の研修の成果を陣屋の解説にしっかり反映させ、これまで以上に、来館者に満足いただけるよう頑張っ活動していきます。



〈日本郵船(株)小樽支店で当時の様子を学ぶ〉

不定期連載【陣屋再発見】

復元工事がはじまるまで、史跡は字白老で区割りされた普通の居住域でした。その名残は現在でも発見できます。今回紹介するのは、史跡の北側から緑丘まで敷かれていた水路の跡です(写真・上)。面白いことに、水路はウトカンベツ川の畔(写真・下)から川の下を潜り、愛宕神社の麓で再び地上に現れています。地下から地上へは自然流の水圧で流れていたようですが、どのように水路をふ設したかはわかっていません。



「仙台陣屋から版 第93号(平成24年11月号)」

発行日:平成24年10月23日(火)

発行所:仙台藩白老元陣屋資料館 担当者:平野・干場

<http://www.town.shiraoi.hokkaido.jp/ka/jinya/>

Mail: jinya@town.shiraoi.jp